

会報・案内

平成14年度第6回理事会議事録

日 時：平成14年8月31日(土), 9月1日(日)
 場 所：31日 京王プラザホテル43階コメット
 18:00~21:00
 1日 京王プラザホテル42階武蔵
 8:00~13:00
 出 席：石垣武男, 板井悠二, 遠藤啓吾, 隈崎達夫
 久保敦司, 小西淳二, 杉村和朗, 田村正三
 中村仁信, 西谷 弘, 早瀬尚文, 松井 修
 山田章吾各理事, 阿部公彦(監事), 大友 邦(監事)

議 事：

1. 前会議事録の承認
2. 第62回日医放総会について
3. 第38回秋季臨床大会について
4. 第13回一次・第11回二次専門医認定試験結果の承認
5. 平成14年度放射線科専門医更新者についての承認
6. 定款改訂
7. 日本医学放射線学会雑誌英文・和文誌発行予算について
8. 日本医学放射線学会雑誌・電子雑誌登録の件
9. 医学物理士受験資格について
10. 本年度医学物理士認定試験受験資格の審査結果について
11. 代議員(評議員)会費及び寄附について
12. 医学物理連絡協議会から再勧告の件
13. 国際交流委員会から国際学会案内, 学会とAOSRとの関係, 国際交流委員会, 国際学会に対する対応について
14. 卒後臨床研修における放射線学会の対応
15. 将来計画委員会からの報告
16. 教育委員会からの常設プログラム委員会の設置についての答申
17. 会員名簿作成について
18. 委員会新委員の承認
19. 日医放IT化ワーキンググループ報告
20. 専門医二次試験の受験資格について
21. 国立大学医学部附属病院長会議マネジメント改革について
22. 放射線診断ガイドラインについて
23. 諸賞についての提案について
24. 会告の承認
 - 8月号 第55回心臓血管放射線研究会のご案内
 第14回骨軟部放射線研究会案内
 日本医学放射線学会会員用メーリングリスト
 正式運用開始のご案内
 - 9月号 放射線科専門医試験第13回一次試験結果
 放射線科専門医試験第11回二次試験結果
 平成14年度放射線科専門医更新認定者および13年

度追加更新認定者

25. その他

報告事項：

1. JRC諸問題
2. 委員会報告
 第62回電子情報委員会
 平成14年度第2回広報委員会
 第55回医学物理士認定委員会

3. 科研費について

4. その他

議 事：

1. 第5回理事会議事録(案)を承認した。
2. 小西会長から資料に基づき第62回日本医学放射線学会総会の合同企画案である特別講演者, 合同国際シンポジウム, 招待講演, 教育講演, 市民公開講座, オンライン登録のシステム登録が終了, 8月1日より登録受付開始, 学会ホームページ完成, 日医放英文ホームページにInvitation掲載等の準備状況について説明がなされた。
3. 渡会大会長より第38回日本医学放射線学会秋季臨床大会の準備状況について説明がなされた。
4. 第13回放射線科専門医認定一次試験および第11回放射線科専門医認定二次試験結果の承認
 8月30日に京王プラザホテルで行なわれた第13回放射線科専門医認定一次試験は, 受験資格者251名中欠席者12名で, 239名受験し, 197名を合格と判定した。
 また, 8月30日, 31日に行なわれた第11回放射線科専門医認定二次試験は, 受験資格者266名中欠席者8名で, 258名受験し, 213名合格と判定したとの放射線科専門医認定委員会の判定を承認した。
5. 平成13年度放射線科専門医更新者について
 田村担当理事より資料に基づき説明がなされた。
 平成14年度更新対象者は494名で今回の更新有効期限は平成19年8月31日まで, 単位不足2名, 猶予申請者10名, 未申請15名, また平成13年度認定猶予から追加更新認定者8名, 専門医資格失効者1名, 専門医返上2名との報告がありこれを承認した。
6. 定款改訂について
 遠藤庶務理事より定款変更案について資料を基に説明がなされた。理事会で理事数, 代議員数, 理事長制等を含め慎重に審議を行った結果, 定款案を一部訂正し案として文部科学省へ提出することを承認した。また細則をどの範囲まで定めるか継続審議とすることとし, 遠藤庶務担当理事, 中村・早瀬将来計画委員会担当理事が中心となり案を作成することとした。また, 役員選出方法については引き続き将来計画委員会で検討することを確認した。定款案については再度文部科学省へ提出し意見を伺うことを確認した。

7. 日本医学放射線学会雑誌英文・和文誌発行予算について

久保編集委員長からメディカルトリビューン社から出された見積書を基に報告がなされた。日医放誌について来年から和文6号、英文6号の発刊で進める予定であること、費用節減については今後も継続的に編集委員長、総務理事が中心となりメディカルトリビューン社との話し合いを進める事を確認した。

8. 日本医学放射線学会雑誌・電子雑誌登録の件

久保編集委員長より学会宛に届いた国立国会図書館からの電子雑誌の収集等に係る許諾願いについて資料を基に説明がなされた。理事会で検討後許諾の方向で進めることとした。そのためにまず電子雑誌のISSNナンバー手続を事務局が行う、また学会が電子ジャーナルを有料化した場合の条件等を確認することとした。

9. 医学物理士受験資格について

山田理事より医学物理士受験の条件として日医放の正会員であることが前提になっているがこの件について医学物理士認定委員会より医学物理士認定試験合格後に日医放への入会資格を得る等変更案が出された。理事会で検討後これを承認した。

10. 本年度医学物理士認定試験受験資格の審査結果について

山田理事より8月10日に行われた医学物理士認定委員会で今年度の医学物理士受験者の受験資格認定について審査を行った結果の報告がなされこれを承認した。

11. 代議員(評議員)会費及び寄附について

板井総務理事より他学会では一般会員と評議員と会費の金額に差をもっているが当学会も検討すべきであるとの提案が出され、継続審議とすることとした。

12. 医学物理連絡協議会から再勧告の件

医学物理連絡協議会から医療事故における再勧告についてお願いの文書が出された件について早淵担当理事より説明がなされた。理事会で検討後、医療事故内容について最新の報告事項も含め勧告内容を検討してほしい旨の要望が出され再度医学物理連絡協議会で検討頂くこととした。

13. 国際交流委員会から国際学会案内、学会とAOSRとの関係、国際交流委員会、国際学会に対する対応について

杉村国際交流担当理事より海外の学会、国際学会などの関係を深めるためにも委員会を立ち上げたい旨の報告があり委員として沼口雄治、平敷淳子、富樫かおり、廣橋伸治、坂本力、江原茂、伊東克能、白土博樹、幡生寛人、竹原康雄各委員が推薦されこれを承認した。

14. 卒後臨床研修における放射線学会の対応

杉村理事より卒後臨床研修における学会の諸官庁への対応について他学会の対応状況が報告があり、日医放としても早急に対応してほしい旨意見が出され、日医放からも早急に要望書を出すこととした。

15. 将来計画委員会からの報告

将来計画委員会担当の中村・早淵担当理事より選挙方法と委員会活動についての中間報告がなされた。選挙については他学会の選挙方法を調べた結果、選出方法の一つに学会活動や論文の数、学会発表等を得点制で換算し役員選出としているところが多いとの報告がなされた。委員会としてはこれらも選出方法に含めたい旨の報告がなされた。委員会活動については現在学会内にある委

員会の活動状況が把握出来ないので次回までに各委員会の活動状況、活動方針を調べ、その上で委員会の必要性を検討したい、また会員にどんな委員会が必要なのかアンケートをとり意見を聞き検討したい旨の報告がなされた。

16. 教育委員会から常設プログラム委員会の設置についての答申

松井担当理事より理事会からだされた常設プログラム委員会の設置についての諮問に対する答申がだされた。理事会で検討後プログラムについては大会長の企画案(独自性)を尊重しあくまでSubcommitteeの立場で行う。名称は常設基本プログラムワーキンググループとし、メンバーは教育委員、各専門領域の委員、大会長の指名する委員で構成することとした。

17. 会員名簿作成について

板井総務理事より現在発行されている名簿は記載方法が電話帳順で見にくいので、あいうえお順に変更したい旨案が出され承認された。

18. 委員会新委員の承認

電子情報委員会新委員：櫛橋民生、尾辻秀章、広報委員会新委員：神立進、松本恒、ウツハムス玲子、健保委員会新委員：細矢貴亮、水沼仁孝、吉川淳、井上祐一、望月輝一、村山貞之、放射線防護委員会新委員：平岡真寛、西澤かな枝各委員の新委員が承認された。

19. 日医放IT化ワーキンググループ報告

西谷担当理事より8月29日に開催された委員会について報告がなされた。

試験問題を管理しているサーバを移転させる件を含め学会の将来をふくめたIT化について話し合いが行われ、今後は予算を検討しながら会員管理、ホームページ管理なども含めて検討していくこととした旨の報告がなされた。

20. 専門医二次試験の受験資格条件について

松井担当理事より今年度から二次試験はコンピュータで行われているが、これに伴い受験資格条件にコンピュータへの症例登録を条件に入れたいとの案が出された。

また編集委員会からも学会関連論文掲載も同時に条件に含めてほしいとの要望がだされた。

理事会で検討後次回までに二次受験資格についての案を作成し再度検討することとした。

21. 国立大学医学部附属病院長会議マネジメント改革について

板井総務理事より国立大学医学部附属病院会議で審議されているマネジメント改革について説明がなされた。学会としての対応については継続審議とすることとした。

22. 放射線診断ガイドラインについて

遠藤理事より専門医会で編集されている放射線診断ガイドラインについて説明がなされた。

理事会で検討後、学会としても関与していくこととし、担当は松井、田村両理事をお願いすることとした。

23. 諸賞についての提案について

遠藤理事より日医放から現在出されている賞は優秀論文賞のみであるので会員のためにも少し賞を増やしてはどうか、また他から各賞の推薦依頼があった場合の学会の窓口がはっきりしていな

いので担当理事を決めてはどうかとの案がだされ、検討後、田村理事にお願いすることとした。

24. 会告の承認

- 8月号 第55回心臓血管放射線研究会のご案内
第14回骨軟部放射線研究会案内
日本医学放射線学会会員用メーリングリスト
正式運用開始のご案内
- 9月号 放射線科専門医試験第13回一次試験結果
放射線科専門医試験第11回二次試験結果
平成14年度放射線科専門医更新認定者および13年度追加更新認定者

報告事項：

1. JRC諸問題

JRCについては次回理事会で話し合うことを確認した。

2. 委員会報告

1) 電子情報委員会

石垣担当理事より平成14年6月23日に開催された委員会の報告がなされた。デジタル画像取り扱いに関するガイドライン1.1版が現在作成中である。秋季臨床大会の時の電子情報研究会についての報告、画像診断報告書検討小委員会報告について説明がなされた。

2) 広報委員会

西谷広報委員長より平成14年7月12日に開催された委員会で審議されたopinionメーリングリストの説明と8月25日から正式に発足、又学会の広報誌の名称はレジオロジイとすること、広報誌については内容案がととのいつつある旨報告がなされた。

3) 医学物理士認定委員会

山田担当理事より平成14年8月10日に開催された委員会について報告がなされた。

今年度の受験者資格審査、受験資格の緩和、医学物理士ガイドライン等について審議された旨の報告がなされた。

3. 科研費について

小西会長より学術会議放射線科専門委員会から今年度から科研費の「複合新領域」の「環境科学」の中に「放射線・化学物質影響科学」細目が設けられ、その中に独立した「放射線影響科学」細目が作られたので会員への応募の呼びかけをお願いしたいとの依頼があったとの報告がなされ、学会としてもホームページなどに掲載することとした。

4. その他

1) 第15回平成14年度優秀論文賞選考日程(案)が出され了承された。

2) 次々々期会長選挙日程(案)について

遠藤庶務担当理事より例年10月号会告に掲載しているが今年は11月号掲載で日程を調整したスケジュール案が出され了承された。

3) 平成14年度前半期 新入・退会・死亡者名

新入会者224名、退会者数72名のそれぞれの氏名が公表され、これを了承した。

4) 平成14年度4年会費未納者について氏名が公表された。8月末まで入金がない場合は自然退会とすることを確認した。

平成14年度第4回将来計画委員会議事録

日時：平成14年8月30日(金)12:00~14:30

場所：京王プラザホテル

出席：中村仁信(委員長・担当理事)

早淵尚文(副委員長・担当理事)、江原 茂
角藤芳久、高橋元一郎、大淵真男、竹田 寛
蒲田敏文、石口恒男、佐藤守男、阪口 浩
大川元臣、清 哲朗、岡崎正敏、桑原康雄各委員

欠席：本田憲業、廣田省三、芦澤和人各委員

議事：

1. 各委員会の活性化について

早淵副委員長から各委員会について、委員長と委員の数、委員長・委員の選出基準、任期、規定等の現状について説明がされた。

委員会で検討した結果以下の問題点がだされた。

- 1) 理事が必ずしも委員会の責任をもっていない。
- 2) 委員の選出方法が統一されていない。
- 3) 今年の理事会から若手の評議員を委員に加えるよう各委員会へ理事会から出されたが、これを検討し委員を選出した委員会と現状維持の委員会がある。
- 4) 委員会活動状況については活動状況がわからない委員会がある。
- 5) 各委員会の活動目的がはっきり明記されていないので活動内容が解らない。

今後の検討事項として

- 1) 委員会が活動しやすいようにするにはどうすべきか。
- 2) 各委員会の継続性をどうするか(理事の任期は2年)。
- 3) 委員会が活発に活動できるためにはどうすべきか。
- 4) 委員会活動を理事会に反映させるためには理事が各委員会の委員長を兼ね責任体制をはっきりさせた方がよいのではないか。
- 5) 若手の評議員から選出するためにも各会員の専門分野等もわかるような状況であると選出しやすいのではないか。
- 6) 委員会活動の目的と活動状況をはっきりさせ、新理事会決定後はすぐに活動出来るようにする。

などが出され、これらを検討するためにも各委員会から活動状況を報告していただいているかどうかの意見が出され、承認された。また、会員が現在抱えている問題点なども把握すべきではないかとの意見が出されアンケートを取ることにした。アンケート案については佐藤委員と早淵副委員長が作成することとした。

2. 日医放選挙について

中村委員長より評議員(代議員)選出方法について他学会の選出状況を資料に基いて報告がなされた。他学会と大きく違うところは被選挙権の資格について会員歴5年以上のみであるが他学会はいくつかの条件(論文発表、学会運営の貢献など)がある。

理事の任期は2年、選挙制度というのは文部科学省からの指導である。これらを含め委員会で検討した結果、立候補制にし、自己申請で会員歴10年以上、5年間で本学会誌への論文(原著、総説)掲載、学会発表・座長・プログラム委員(総会・秋季臨床大会)、

各種委員会委員を得点制で10点以上を条件とするなどの意見が出された。

再度中村委員長にこれらの意見をまとめていただき、継続審議とすることとした。

第158回放射線科専門認定委員会議事録

日 時：平成14年8月30日、31日
場 所：京王プラザホテル4階 宴
出 席：松井 修(委員長・担当理事)
山田章吾(副委員長・担当理事)
田村正三(担当理事) 大友 邦, 渋谷 均
中島康雄, 福田国彦, 星 博昭, 竹田 寛
杉村和朗, 西村恭昌, 西谷 弘, 林 邦昭
工藤 祥, 晴山雅人, 井上登美夫, 角谷眞澄
伊藤春海, 阪原晴海, 村田喜代史, 山下康行各委員
欠 席：玉木長良, 荒木 力, 榎林 勇, 池添潤平各委員
議 事：

1. 8月30日、31日に行われた専門医試験についての判定会議を行った。

第13回放射線科専門医一次試験結果：
受験資格者251名、欠席者12名、受験者239名、合格者197名
第11回放射線科専門医二次試験結果：
受験資格者266名、欠席者8名、受験者258名、合格者213名

2. 新委員会の委員紹介、および副委員長、地区代表委員を決定した。副委員長は東北大の山田章吾、地区代表委員は北日本地区：玉木長良、関東地区：中島康雄、福田国彦、中部地区：竹田 寛、関西地区：杉村和朗、中四国：西谷 弘、九州：山下康行(敬称略)

3. 平成15年の試験予定について

委員会で検討後来年度の試験日は一次試験：平成15年8月29日(金)、二次試験：平成15年8月29日(金)、30日(土)と決定した。また願書の受付は平成15年4月14日(月)から5月9日(金)までとすることとした。

4. 試験問題作成小委員の構成について検討を行った。印が小委員長となる。試験問題の分類は例年通りとすることを確認した。また、筆記試験小委員長は口頭試験の小委員長も兼ねることとする。

診断Ⅰ：骨・関節・中枢神経・IVR 委員： 工藤, 田村, 西谷, 福田,(中枢：吉川)

診断Ⅱ：呼吸器・心血管・小児・乳房・IVR 委員： 竹田, 中島, 伊藤, 村田, 松永

診断Ⅲ：腹部・消化器・泌尿生殖器・IVR 委員： 杉村, 松井, 角谷, 山下

核医学： 委員： 玉木, 井上, 阪原

治療： 委員： 西村, 晴山, 渋谷

基礎： 委員： 山田

各委員には今年度の試験問題と正解率、問題作成スケジュールを郵送することとした。

5. 来年度からの専門医試験について

委員会で検討後来年度も今年度同様の形式でおこなうことを確認した。

6. 放射線科専門医の広告緩和に伴い検討すべき点

現在厚生労働省へ申請中の専門医広告にともない下記の点について今後検討をメールで行い次回委員会ですとすることとした。

1) 修練機関・修練協力機関の審査基準の見直しについて

2) 65歳以上の専門医更新について

7. 専門医受験資格に症例登録関連学会誌への投稿論文を条件に加える件について

今年度からコンピュータによる試験を行ったが二次受験者には症例登録を受験資格に加えてはどうかとの案が出され、委員会で検討後これを承認し、理事会で検討いただくこととした。

第63回電子情報委員会議事録

日 時：2002年9月16日(日)10時より17時
場 所：慶應義塾大学医学部別館3階 第2会議室
出 席：石垣武男(委員長), 稲邑清也(副委員長)
安藤 裕(副委員長), 江本 豊, 越智 誠
紀ノ定保臣, 黒田知純, 佐々木康夫, 島本佳寿広
西谷 弘, 榎橋民生, 尾辻秀章, 小寺吉衛(JSRT)
IHE-J オブザーバー：近藤博史(鳥取大学)
岡崎宣夫(アリゾナ大), 田中雅人(浜松ホトニクス)
欠 席：煎本正博, 大山永昭, 木村通男, 佐古正雄
澤田 敏, 滝沢正臣, 三宅秀敏, 宮坂和男
森 宣, 倉西 誠(JSRT), 松井美楯(JSRT)

配布資料：

(1) 第62回議事録

(2) デジタル画像取り扱いに関するガイドライン1.1版

(3) 第15回電子情報研究会プログラム

(4) 第1回画像診断報告書研究会プログラム

(5) 画像診断モニタの安全性とその耐用期間判定評価法の開発に関する研究

(6) CyberRadにおけるIHE 報告

(7) IHEあるべき姿

1. 前回の議事録を修正し、承認された。

榎橋先生の名前と所属を訂正した。榎橋 昭和大学横浜市北部病院

2. 新委員の挨拶

今回より以下の2名が委員会に加わった。

昭和大学横浜市北部病院 榎橋民生

済生会吹田病院 尾辻秀章

3. ガイドライン(石垣)

配布資料について説明があり、一部修正し、理事会へ提出して了解を取るようになった。承認後、ホームページに掲載することにする。

小寺委員がJPEGおよびDICOM形式の参考画像を準備して、ホームページ上に掲載することとした。テスト画像のダウンロード

ド：元画像を使うが、画像が大きいのので参考にデータ量の小さいJPEG画像も置く。データは小寺先生から安藤先生へ 文献にある、ガイドライン1.0, 1.1を削除する。

4. 小委員会

4.1 画像診断小委員会

西谷、稲邑委員より第1回画像診断報告書研究会プログラムについて報告があり、座長を決定した。参加人数を約100名と予想している。

座長：石垣先生(4題)、安藤先生(3題)、稲邑先生、尾辻先生(パネル)とし、スライド資料を配布予定。原稿を演者からメールで集める。

研究会後に小委員会を実施する。小委員のメンバーとして演者、座長に依頼する。佐々木先生に委員長を依頼した。

4.2 遠隔画像診断部会

第2回遠隔画像診断部会の報告。詳細は、以下のURL

<http://www.asahi-net.or.jp/SM5M-IRMT/tele.html>

第3回を秋季臨床大会で行う。

5. LCDモニターに関する研究班

背景として、CRTから液晶モニターへの移行が進むので、2~3年でガイドラインの作成を目標とする。研究費の問題：委員長より、研究費の申請を行っているとの報告があり、研究費が十分でないので、メーカーサイドもメンバーに加えて検討しているとの報告があった。LCDによる読影実験を検討している。

カラーモニターが使えるのか検討すべきであるとの意見があった。

6. IHE-J(安藤)

資料により、説明があった。CyberRadの概要と今年4月に行ったテーマ展示(IHE-J)について説明があった。また、CyberRad 2002で撮影したビデオを供覧した。このビデオ(DVD)を委員全員に配布することになった。

ビデオについては、ナレーションだけでなく図による説明があった方がよいなどの意見があった。

HEを導入する前と導入後で比較できると説得力があるとの意見があった。

2003年度のCyberRadの計画：テーマ展示としてIHE-J

一般演題

口演：場所と時間がとれれば行いたい

チュートリアルテーマ案

CAD

DICOM

電子カルテとPACS

ASPと医療

DICOMサーバー

その他テーマがあれば次回の委員会で提案をお願いしたい。

7. 秋季臨床大会への準備

石垣先生がプロジェクターの手配をする。

8. IHE-J あるべき姿について検討した。

・概要説明(岡崎)

HL-7やDICOMを使って病院情報システムの構築が可能であるこ

とを示す。テクニカルフレームには、アクターとトランザクションが規定されている。

IHE-Jは、日本に特化したテクニカルフレームを提案する。

IHE-J委員会の組織、IHEプロフィール、IHEの考え方などの説明があった。

別紙 資料に詳細な検討結果を示す。

次回の委員会(10月24日、秋田)でIHE-J技術検討委員会との合同委員会の可能性を確認。

次回10月24日 12時 秋季臨床大会(秋田)

議題：第4回 遠隔画像診断部会

小委員会報告(画像診断報告書検討、標準化)

CyberRad2003の準備状況報告

第416回日本医学放射線学会雑誌 & Radiation Medicine 編集委員会

日時：2002年10月16日午後4時~6時

場所：メディカルトリビューン社3階会議室

出席：西谷 弘理事、小久保 宇、今井 裕、牧田幸三

鎌田 正、原田潤太、稲田陽一、齋藤秀敏各委員

欠席：久保敦司理事、笹井啓資、井上登美夫

小泉 潔、窪田宣夫、三橋紀夫、大友 邦各委員

日本医学放射線学会雑誌編集委員会議題

久保委員長が体調不良で欠席であったので、西谷理事が司会を行った。

1. 投稿現行の現況報告 了承された

2. 10月号、11月号掲載予定 原案通り了承された

3. 12月号、1月号企画、その後の企画

12月号：秋季臨床大会教育講演から選んで特集することとした。

1月号：秋季臨床大会シンポジウム「心臓画像診断 現状と展望」を載せるよう交渉することとした。

その後11月に行われる放医研シンポジウム「粒子線治療」などで依頼する。

鎌田委員が担当する。

4. 第61回学術大会の一般演題座長推薦論文の投稿状況 了承された

5. 論文賞の推薦について

次回の委員会で決めるが、11題すべてについて議論するのは困難であろうと考えるので、各人が最も良いと考える1題をあらかじめ選んでおき、それを次回までに集計しておくこととした。

6. 査読者リストの件

診断のリストが示され了承された。治療、核医学についてもリストに加えることとした。

7. その他

牧田委員から造影剤の使用量と臨床的有用性について症例をラウンドに選んだプロスペクティブスタディが投稿されているが、インフォームドコンセントなどをもって行うべきではないかという疑念が提示された。討論の結果、倫理委員会あるいはインフォ

ームドコンセントなど倫理上の問題解決策を要求することとなった。今後は投稿規程にはもう少し具体的に倫理的問題については記載することとした。国際的な状況を含めて牧田委員が案を作成することになった。

投稿規程に関して、来年Radiation Medicineも学会誌となることから、その整合性が問題となり、会員のみが筆頭著者となることについては、委員会の意見ではそのように規制する必要はないというのが大勢であった。その理由は、質の高い論文がほしい、論文の数を増やしたいからである。会員外の論文ばかりになるのは、あるいは数が多くなりすぎるのではという懸念には運用で対応すればよい。会員以外の1万円の徴収による収入は年間50万円くらいなのでたいしたことはなくはずしても問題ないだろうと考えられる。次回の委員会で投稿規程を決定する。

Radiation Medicine編集委員会

倫理的な問題、投稿規程が話題となった。次回の委員会で投稿規程を決める。

次回の委員会は12月18日 16～18時。

学会・研究会等のお知らせ

1. 第6回ライフサイエンス課程 研修生募集
2. 目的 本課程では、生物学・医学・薬学・農学などの、ライフサイエンス分野の研究に必要な、放射線の基礎および放射性同位元素(RI)利用技術に関する講義・実習を行う中で、RIの安全取扱いに必須の放射線防護の知識・技術を習得することを目的としている。
3. 応募資格 ライフサイエンス分野においてRIを使用しているか、または使用しようとしている研究者、技術者、および大学・大学院の理科系専門課程に在学する学生。
4. 募集人員および研修期間
 - (1) 募集人員 約16名
 - (2) 研修期間 自 平成15年1月20日～
至 平成15年2月7日
5. 独立行政法人 放射線医学総合研究所 研修課
〒263-8555 千葉県稲毛区穴川4-9-1
電話番号 043-206-3048
FAX 043-251-7819
e-mail training@nirs.go.jp

訂正記事

日本医学放射線学会秋季臨床大会のフィルム教育展示症例集、ならびにフィルムリーディングセッション 症例と解答の記事中に誤りがありましたので、お詫びし訂正いたします。

フィルム教育展示症例集：症例6の図1と図2の写真が入れ違っておりました。

フィルムリーディングセッション 症例と解答：症例2の解答の訂正

“第4脳室に発生した脈絡叢乳頭腫”と解答いたしましたが、画像診断上は小脳谷に主座を有し、第4脳室を挙上する腫瘍で、組織学的に脈絡叢乳頭腫と診断された、とするのが正しいと考えられます。